

## 令和5年度 第11回全体庁議（11月2日開催）

区分	審議	報告	案件名 (担当部)	(2) 基金のあり方に関する検討について〔政策推進部〕
----	----	----	--------------	-----------------------------

### ■ 提案・報告の趣旨

基金を取り巻く状況が大きく変化してきていることから、基金全体の検証を行うとともに、併せて、帯広市高等教育整備基金条例廃止に伴う財源の活用方法等、今後の財政運営において基金を有効に機能させていくための検討を進めてきた。基金全体を検証した結果や新たな積立手法など、今後の基金のあり方について検討した結果を取りまとめたので、令和5年11月21日開催の総務委員会に報告するもの。

### ■ 提案・報告の主な内容(概要)

#### 1. 検討の背景と今後の財政運営における基金の役割

今後の財政状況は、人口減少・少子高齢化により厳しい財政運営が見込まれることから、大学基金廃止後の財源を含め、基金全体のあり方を整理することとしたもの。

物価高騰などによる経常的経費の増加はもとより、老朽化した公共施設等における突発的な修繕など、臨時的経費の増加が見込まれることから、今後の基金の役割として、財源不足を補い年度間の財源の不均衡を調整する機能が求められる。

#### 2. 既存基金の検証

帯広市が設置する26の基金を対象に、今後想定される様々な行政課題に対し、基金が財源の不均衡を調整する機能を有効に発揮できるか検証した結果、公共施設等の老朽化対応は、既存基金では対応困難な行政課題であると判明した。

#### 3. (仮称)帯広市公共施設等整備保全基金の創設

公共施設等の老朽化対応は、今後見込まれる行政課題の中で最も財政需要が多く、かつ、突発的な財政需要が見込まれるため、他都市の状況なども踏まえ、新たな基金を創設する必要があると考えたもの。

また、今後の厳しい財政運営の中、毎年度市費で新たな基金に積み立てていくのは難しい状況であるほか、一定の積立額までに達するまでには相当の時間を要するため、高等教育整備基金条例を廃止することで生み出される財源を有効に活用していくことが適時適切な対応と考える。

#### 4. 新たな積立方法の検討結果

ふるさと納税制度による寄附金が伸長しているものの、寄附金は寄附者の意向により、用途が限定される特定目的基金に積み立てられているため、優先順位の高い行政需要に財源を充当しにくい状態である、いわゆる「財源の硬直化」が生じている。

ふるさと納税のポータルサイトを検証した結果、寄附者が選択する寄附金の用途は、ポータルサイトの掲載順と一部連動性が認められたため、サイト設定を柔軟に活用することで、財源の硬直化に都度対応していく。

### ■ 今後のスケジュール

- ・ 令和5年11月21日 総務委員会へ報告
- ・ 令和5年11月～ 令和6年度予算編成
- ・ 令和6年3月 令和6年第1回3月定例会へ関連基金の条例設置及び廃止案等を提案

### ■ 審議結果

- ・ 同内容で、11月21日総務委員会へ報告することで了承された。

### ■ その他、指摘事項等

- ・ 既存基金の今後の検討スケジュール等について